

AJU愛実

第49号 会報

編集: 特定非営利活動法人愛実の会

- ・愛実の会事務所
- ・居宅介護事業所あみ
- ・生活介護事業所障がい者デイセンター愛実
(大地の家／紙風船)

定価:一部100円

NPO設立15周年～夢の途中～ / 理事長 戸田 真二

	P1～P2
法人事業報告	P3
会計報告(活動計算書)	P4
大地の家	P5～P6
紙風船	P7～P8
感動がいっぱい／島 しづ子	P9
寄付者名簿	P10



大地の家 散歩に行こう



紙風船 ボッチャ

NPO 法人設立15周年 ～ 夢の途中 ～

理事長 戸田 真二

NPO法人愛実の会は、2007年1月に「愛実友だちの家・大地の家・紙風船」の3つの異なるグループが合併して創られた法人です。以前はそれぞれが10年～20年の特色のある活動と独自の歩みを進めていました。合併することで定員20人の生活介護事業所として新たなスタートとなったのです。3つのグループは共に家庭的なアットホームな雰囲気を大切にしてきたことから、新生愛実もそのスタイルを引継ぎ、現在の愛実の会の特色となっています。そして来年の1月にNPO発足から15周年を迎えようとしています。

今から34年前、愛実のお母さんたちは「将来の夢」を語り合いました。まだメンバーが当時養護学校高等部の頃の出来事です。「夢」とは地域で親亡き後も安心して委ねられる場所作りでした。親たちが大事に世話するように、この子らを大切にしてくれる人たちに託す想いがそこには描かれていました。当時、重度重複の肢体不自由児を持つ親たちは、この子は10歳までしか生きられない。長くても20歳までとお医者さんから言われていたそうです。先進医学の発達によって、多くのメンバーたちは成人を迎え、更に30～50歳と長生きをするようになりました。親たちの思いには「この子より一日だけ長く生きたい」という切実な思いがあります。そんな親たちが、地域生活を支える福祉制度が全くなかった時代に夢を語っていたのです。自分たちの子どもを安心して委ねられる場所、そして託せる人たちへと。

同世代の多くの施設は親たちの手で立ち上げられています。与えられるのではなく、自ら子どもたちの居場所を作ったのです。無からスタートし、足りないものを訴えながら、制度は後から整って来ました。過ぎし30年、福祉はノーマライゼーションから大きな発展を遂げ、制度改革は進み、受けられるサービスも充実してきました。措置の時代は行政処分として扱われ、今や事業者と利用者との契約によって、サービスを選ぶ時代へと変化してきたのです。

愛実の会も行雲流水の如く時代と共に歩みを進めてきましたが、ご時世となったコロナ禍によって将来への不安は増し、更に夢を語り合うことが希薄になっていることに気づきます。『福祉＝みんなの幸せを創造すること』わたしのモットーですが、多様性の時代にあって、幸せの形は千差万別です。そこには「こうあるべき」はなく、違いを認め合い、個性と自由な発想が大切にされます。そして、ひとりの幸せの形が、みんなの幸せに広がっていく可能性に創造を膨らませます。私は最近、『みんなちがって みんなおかしい(笑)』の言葉に出会い、とてもホッとしている自分がいます。『みんなちがって みんないい』は良く知られていますね。誰もがOnlyOneであり、障がいのある人を理解するためのガイドブックの標語としてもよく使われています。『みんないい』は理念としては素晴らしいと思います。しかし違いにつまづく人たち、差別を感じている人たちにはギャップの大きい言葉でもあるのです。『おかしい』＝否定よりは肯定的である曖昧な表現をお笑いと読んでいます。

最後にある笑いが決め手ですね。この笑いに救われます。大きな声では笑えませんが、価値観の違いや、生きづらさ、苦難や逆境さえも笑いという感情に変えることで一歩前に進めることをこの言葉から感じることができます。自分の存在を否定から肯定に感じる時、一人ひとりの喜びや悲しみ、そして小さな幸せに寄り添うことができるのではないのでしょうか。先の見えないコロナ禍を乗り越えるヒントもここにあるように思うのです。

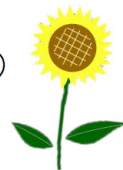
さて、夢の続きにもどりますが、重度重複の障がいを持った方たちの親亡き後の終の棲家となる地域生活の選択肢は、現状の制度化ではとても厳しいものがあります。それは、家族介護に置き換わる新たな形が必要となり、24時間、365日の継続的な支援を様々な社会資源と連携し組み合わせていくことになるからです。ひとりを支えるためにどれだけのマンパワーが必要になるかということです。そして形が整ったとしても、誰と一緒に住むか？誰が支援に携わる人たちかも重要となります。安心して委ねられること。違いを認め合い、共感し笑いあえる多くの仲間。こんなことを思い巡らせています。愛実の会の設立15周年は、これから先のビジョンを多くの人と共有していくための一年としました。何を大切にしていくなのか。何が必要かということです。そこには、みんなの幸せを願うための創造が溢れています。私たちの活動はとても小さなものです。しかし、ここには社会に対しても大きな意味を持っていることを確信します。

まだまだ夢の途中であることを覚え、一歩前へ・・・。



2021年度 愛実の会運営方針について

- ①新型コロナウイルス対策として、できる限りの環境整備を講じて、メンバー、家族・職員が安心できる事業の継続を目指し、感染症や災害が発生した場合の対応力を強化する。
 - ・ 感染症及び災害時の対応力を図るため、業務継続計画(BCP)を早急に取り組む。
- ②NPO法人設立15周年を迎え、将来のビジョンを明確にするため、コンセンサスを得る一年とする。
 - ・ 15周年記念イベントの開催を2022年2～3月に計画(コロナ禍収束の折)
 - ・ シェアハウスの具体化を目指し、学びの場・分かち合いの場を設け、イメージの共有。
- ③コミュニケーションの円滑化を重視し、個々の気づきを大切にしたりした取り組みを行う。
 - ・ メンバーの変化や支援及び職場内改善について、一日の振り返りから個々の気づきを重視。
- ④愛実の会の活動を地域社会に紹介をしていく。
 - ・ 愛実の会法人パンフレットを新たに作成する。(各部署の活動を魅力あるものに)
 - ・ 会報を地域へ配布、災害時等を想定とした地域との連携を模索。
 - ・ ホームページにて情報公開及び情報発信を促進させ、見える化を目指す。



2020年度事業報告

愛実の会は当法人の理念にのっとり、重度の障がいのあるメンバーのサポートに力を入れて、彼らが安心して充実した地域生活を継続的に送ることが出来るよう、他の団体と協力しつつより良いサポートを目指し下記の3つの事業に取り組んでいます。

① 生活介護事業

契約メンバー数 30名(2021年3月31日現在) 1日平均 13.5 名の利用(定員20人)

2020年度はコロナ禍の影響を大きく受けた一年となった。通所ができなくなったメンバー2名の他、利用のキャンセル等を含め当初の利用予定は1日平均17名から13.5名と大幅な減少となった。感染予防についてはできるだけの策を講じ、メンバー・職員の安全を第一にし、活動については外出活動が全面的にできなくなり、制限の多い中であっても、メンバーの笑顔を大切に寄り添う支援を実践した一年となった。

② 居宅介護・重度訪問介護及び移動支援事業

ホームヘルプとして(朝・夕の介助、入浴、通院、外出支援、家事援助等)を行い、24時間安心できる地域生活の支援を行った。2020年度利用:月平均99件(前年度144件)特に居宅介護と外出支援についてはコロナ禍の影響により、利用のキャンセル及び不要不急の外出制限など、大幅な利用減となった。一方、地域生活支援としての重度訪問介護については、他機関との連携及び夜間の支援体制等が整ってきた。更に医療的ケアの体制強化として、喀痰吸引等の研修を推進し2名が取得した。名古屋市の移動支援事業は、通学及び通所時の付き添いを行った。利用2件=29回、移動支援は今年度末で利用契約終了となった。

③ 独自サービス事業について (緊急時対応有料サービス)

コロナ禍の影響から利用件数が大幅減少した。 81件(前年188件)

主なサービス内容(デイサービスの延長:朝・夕、通院・外出時の対応等)



★ 支援体制について 総数38名(2021年3月31日現在)

正職員17名、嘱託職員 2名、その他パート19名(生活支援員・看護師・給食・ドライバー等)

★ 新型コロナ感染予防

3密対策 :テーブル・加湿器・アルコール消毒・マスク・手袋・防護服等の整備

購入費約140万円、愛知県福祉サービス確保対策事業費補助金116万円

その他、マスク・手袋等の支援物品や寄付を多数いただきました。

愛実の会では、情報発信として「見える化」を進めています。事業報告の詳細についてもホームページにて掲載しています。 aminokai.com又は『愛実の会』で検索下さい。

活動計算書

2020年4月1日～2021年3月31日

特定非営利活動法人 愛実の会

科 目	金 額	単位:円
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	135,000	135,000
2. 受取寄附金		
寄附金	2,694,590	
夢づくり	972,209	
受取寄付金計		3,666,799
3. 受取助成金等		
受取助成金	2,208,432	2,208,432
4. 事業収益		
1) 生活介護事業収益	101,349,653	
生活介護事業収入	79,295,253	
名古屋市重心補助金収入	19,568,100	
食事収入	2,462,470	
就労支援事業収入	23,830	
2) 居宅介護事業収益	16,963,340	
3) 移動支援収益	87,500	
4) 独自サービス事業収益	66,750	
事業収益計		118,467,243
5. その他収益		
雑収益	1,730,236	1,730,236
経常収益計		126,207,710
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	64,565,000	
法定福利費	8,358,734	
福利厚生費	616,385	
人件費計	73,540,119	
(2) その他経費	30,560,680	
事業費計		104,100,799
2. 管理費		
(1) 人件費		
役員報酬	5,996,450	
給料手当	3,628,022	
法定福利費	1,251,643	
福利厚生費	33,125	
人件費計	10,909,240	
(2) その他経費	3,520,236	
管理費計		14,429,476
経常費用計		118,530,275
当期経常増減額		7,677,435
法人税、住民税及び事業税		71,000
当期正味財産増減額		7,606,435
前期繰越正味財産額		60,344,875
次期繰越正味財産額		67,951,310

※貸借対照表はWeb:愛実の会ホームページ及び内閣府NPO法人ポータルサイトより「愛実の会」検索にて閲覧することが出来ます。尚、皆様から頂いた寄付金は、①新型コロナウイルス感染予防対策費 ②紙風船夢づくり(新作人形劇制作)等のために活用させていただきました。感謝を持ってご報告させていただきます。



大地の家

3月-6月

2021年度の目標！

- メンバーの思い、気持ちを汲み取り、寄り添えるような関係作りを目指す
- 「季節感」を重点的に捉え、季節の行事や日常の活動に季節を感じられるような取り組みを計画しつつ、外での活動も行っていく
- 新しい生活様式を理解し、その中で新しい取り組みを行っていく

今年度は昨年度からの対策を継続しつつ、昨年度よりも活動の幅を広げていきたいと思っています。コロナ禍において、安全安心に留意しつつ「何ができるか」「何が楽しめるか」を模索していきます。

外出については、近隣への散歩の延長線上にあり、あまり密にならない場所を探し、実施していきます。コロナ禍以前には一日がかりで他県まで外出することもありましたが、一旦リセットし散歩外出から再スタートしたいと思います。

昨年度を振り返ってみると、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、制限を受けることも、悲観することも多くありました。しかし、大地の家の取り組みにおいて、リセットする良い機会が与えられたとも思うようになりました。自分たちがこれまで実践してきたこと、大切にしてきたことを振り返り、コロナ禍にあっても続けていきたいことを考えるようになりました。

昨年の秋に散歩に出た時のメンバーの笑顔が今も記憶に残っています。外出活動がはばかれていた時に、久しぶりにみんなで近所へ散歩に出かけました。外出はかなわなくともせめて散歩にだけでも、との思いから実施しました。外に出ると、メンバーの表情も和らぎ、何人かのメンバーはニコニコしていました。みんなで外に出ること、このことのもたらす刺激がメンバーにとってとても貴重なことだったのだと実感しました。

メンバーにとって何が心地の良い刺激になるのか、笑顔のもとはどこにあるのか、ということも今年度も模索し続けたいと思います。

新メンバー紹介 ♪

今春より大地の家に新たにメンバーが加わりました。小中高と12年通い続けた愛知県立港特別支援学校を卒業され、社会に出られました。笑顔をはじめとしていろんな表情をたくさん見せてくれています。関りを多く持ち、お互いを知りあっていきたいと思っています。



今号から、日々元気に活躍中の大地の家のアシスタントの「思い」を紹介いたします！

一人ひとりの楽しみを大切に



松山遼 大地の家副主任

大地の家では、毎日レクや工作、音楽などの活動プログラムを行っています。活動ではメンバーの力を最大限発揮できるようにアシスタントに促したり、一緒に考えたりして、楽しい活動となるよう努めてきました。

その中で、毎月「マイタイム」という個別に活動できる時間があります。通常の活動とは異なり、メンバーとアシスタントが一对一でメンバーが選んだことに取り組める大切な時間です。私がマイタイムを大切に思う理由は、一つでも「これをやりたい」「やってみよう」ということをメンバーに発信してほしいからです。好きなことをしている時のメンバーの表情は豊かで、アシスタントに訴えかけてくる回数も増えています。好きなことから興味や関心が広がり、やがて活動全般に「参加しよう」「やってみよう」という前向きな気持ちが持てるようになってほしいと期待しています。そして、メンバーそれぞれの興味関心が大地の家の成長に大きく作用することを願っています。

マイタイムが月に一度だけなのは少なく、もっと好きなことをしても良いのではないかと思います。しかし、他の活動でも繰り返し活動することで、だんだん理解ができ、参加しようと手が伸びることがありました。繰り返すことの効果は大きく、活動の場面で「笑顔が増えた」「返事が返ってきた」などのプラスの効果も出てきています。

メンバーの表情の変化を見逃さないことと、活動全般において楽しい空間となるよう今後も取り組み、少しずつ成長できるように考えていきたいです。

変化を乗り越え楽しめるように



山本りな 大地の家生活支援員

昨年の四月に産休・育休を経て職場復帰をしました。

一年以上大地の家を離れ、以前のように働けるのか？遠くからの通勤で子育てをしながら働けるのか？不安でいっぱいでした。

実際は大地の家のアシスタントやメンバーが温かく迎え入れてくれて、居心地の良さを再認識しました。「赤ちゃん大きくなったよ」「これからまたよろしくね」と伝えると笑顔を見せてくれるメンバーが多く、その優しい気持ちが嬉しかったのを覚えています。私は、島さんが作ってきた大地の家の良さの一つに家庭的な温かさがあると思っています。メンバーに対し、アシスタントがそのような気持ちを大切にしているのはもちろん、アシスタント同士、メンバーがアシスタントへ温かい気持ちでいられる大地の家をこれからも大事にしていきたいな…とこの一年で思うことが多かったです。

職場復帰と新型コロナウイルス感染症の流行が重なり、私にとって去年は変化が多い年でした。感染症の流行により、以前のように食事や外出をしたり、お互いに顔を見合わせて密に関わることが出来なくなりました。それでも感染予防策をしっかりと取った上でメンバーに楽しんでもらえる事、お互いを感染から守り関われる方法をアシスタント間ではこの一年、話し合いを重ねてきました。重ねることでアシスタント間の風通しも、より良くなったように思います。

お互いを大事に思うからこそ、安心して楽しんで通うことのできる大地の家をこれからも皆で作っていききたいです。

紙風船のページ

紙風船2021年度目標～いいねを広げよう～



お誕生日会



紙風船にはいつも笑顔があふれています。もちろん人形劇の稽古は真剣ですが、ホッと息抜きのできる時間も大切にしています。その一例をご紹介します。

- ・誕生日会…メンバーのお誕生日会ではギターの生演奏でハッピーバースデーを歌い、お花と手づくりカードでお祝いします。
- ・壁紙づくり…季節ごとの行事や草花、動物をテーマにぬり絵や貼り絵、折り紙などで製作しています。
- ・夢づくり活動…最近では、オリジナル作品を考え人形を使って動画を撮りYouTubeに投稿しています。今は、以前にご紹介した「やっぱりうっかりオオカミ君」の第二弾に取り組んでいます。
- ・運動、ケアの時間…室内バスケットやボッチャで体を動かす人、また和室で横になりストレッチやマッサージをしてゆったりする人、その日の体調に合わせて過ごします。



壁画づくり

公演活動や外出が制限されて一年余り経ちます。まだまだ室内での活動が主ですが、私たち紙風船は、テーマ「心からの笑顔」や「ふれあいつながり」を大切にすることを忘れずにコロナ禍を乗り切っていきます！

リモート公演の実現に向けて

紙風船は、昨年から外部での公演活動を持てていません。新作づくりがスタートし8月の完成に向けて日々稽古に励んでいますが、毎年出場している人形劇フェスティバルは今年度も中止のお知らせがあり、お披露目の機会の見当がついていません。メンバーの気持ち向上のために、以前にもお知らせしましたが「リモート公演」の実現に向けて少しずつですが、動きだしています。また、現在外部の方を施設にお招きすることができないため、お手持ちのスマートフォンやタブレット、パソコンから紙風船の活動の様子を見学できるシステムをつくりました。

火曜日～土曜日 11:00～12:00、13:45～14:30なら見学可能です。興味を持たれた方は愛実の会紙風船までお問い合わせください。

詳しくは

人形劇団紙風船



新グッズ紹介～グッズ係～



大野義徳 紙風船生活支援員



ポンタぬりえ絵はがき



私も作っています！

紙風船では、今まで公演活動のほかに公演場所で缶バッジやクリアファイルなどオリジナルグッズの販売を行ってきました。これらはメンバーみんなが知恵を出し合って作りあげてきたものです。グッズの売り上げは、公演料とともにメンバーへ還元してきました。

ところが、昨年からのコロナ禍で公演活動ができなくなり、一時グッズ販売も中断しておりました。意気消沈していた時もありますが、このままではいけないと一念発起、インターネットを利用したグッズの通信販売に乗り出しました。それに合わせて、新しいグッズを作ることになりました。暗い雰囲気の中でも少しでも前向きに歩んでいきたいとの思いで、メンバーみんなとアイデアを出し合って楽しく作っています。この一年では、咳エチケット缶バッジ・キーホルダーをはじめ、人形劇のセリフをバッジやキーホルダーにして、ネット販売してきました。そしてこのたび、人形劇「ポンタとたっくん」のぬりえ絵はがきが完成しました。お子様から大人まで、「おうち時間」を少しでも楽しく過ごしていただけのようなグッズを目指しています。これらのグッズは、人形劇団紙風船のWebサイトからご注文いただけます。

多くの方に手に取っていただき、少しでも笑顔になっていただきたいと思います。今後ともどうかよろしくお願い致します。

笑顔を広げるために～宣伝係～



石川裕右 紙風船主任

少し前までは、メンバーとアシスタントと一緒に電話をかけたり直接訪問したりして宣伝活動を行っていましたが、コロナウィルス感染症拡大により、人形劇公演はもちろん宣伝活動としての訪問も出来なくなりました。しかし、今だからこそできる活動をみんなで考え、力を合わせて様々な活動に取り組んでいます。

現在はSNSを活用しての宣伝に力を入れ、ツイッターのフォロワー数が6月現時点で1200人を超えました。また、YouTubeでもチャンネル登録者数が一桁の所から86人まで増えています。まだ動画は月に一つぐらいのペースですが、練習の様子や新作人形劇の宣伝CM、人形を使ったオリジナルの寸劇などをアップしています。

昨年度は名古屋音楽大学の学生の方とリモートでコラボ動画の制作もしました。ぜひ一度ご覧ください。そして、チャンネル登録もぜひよろしくお願い致します。

ご不明な点は、紙風船アシスタントまでご連絡下さい。



感動がいっぱい

島 しづ子

愛実の会を応援下さるみな様、愛実の会のみな様、お元気でお過ごしでしょうか！

一年前の6月、渡嘉敷島に行きました。渡嘉敷島のある慶良間諸島の海はケマラブルーとして世界に名高い美しい海です。第二次世界大戦末期の1945年3月末に米艦隊が海を埋め尽くすように並び、渡嘉敷島や慶良間諸島を攻めました。日本軍がいた島では米軍捕虜になることを恐れた人々が集団で強制死に誘導されました。悲しい歴史です。戦跡後を見て、海を見ると人間の愚かさと大自然の雄大さにため息が出ます。

沖縄県各地に戦争の傷跡があります。その傷も癒えないまま、政府が新基地を辺野古・大浦湾に造ろうとしているので県民の70%以上が反対しています。海上抗議チームはカヌーと船が協力し合って行動しています。カヌーチームは土砂を運ぶ台船の動きを止めようと漕ぎ出します。私はそれをサポートする船に乗り、最近は操船も時々させてもらっています。

船の上ではいつでも緊張しているわけではなく、待ち時間も多くあります。そんな時、大浦湾の海の中を覗き込み、サンゴの集落に遭遇し、サンゴに群れる色とりどりの魚に歓声をあげます。海は日差し、雲の様子、浅い深いなどによって刻々と色を変えます。その美しさは誰もが詩人になるくらいです。この海、空を描きたいと思って、水彩でカレンダーの裏に描き始めました。後にカレンダーの裏紙では色あせることがわかり、画用紙に切り替えました。船で辺野古・大浦湾に出るたびに、この海の色はどうやって出せるか？朝焼けの壮大さはどう表現できるか？などと考えて写真を撮り、写真を見ながら家で描いています。家に飾ってある絵を数えたら24枚飾ってありました。飾って無いものもありますから一か月に3、4枚描いているようです。だんだんと対象が変わってきました。少し細かい描写もできるようになりました。自分の変化に驚きます。表現したいから一生懸命に描く、感動したものを表したいという意欲なんだと思います。いつか愛実の会で展示させてください。

最近、Zoomで東海市の佐藤仙務さんの起業までのお話を伺う機会がありました。「寝たきり社長」として活躍中の佐藤さんは重度の身体障がい者です。冒険家だと感心しました。今、活躍しているほとんどの福祉事業は、30年前は無かった事業です。愛実の会も含めた多くの福祉事業、特に重度の身体障がい者の事業は皆無でした。みんな冒険家だったと思います。そしてそれを可能にしたのは、仲間たちの真剣に生きている姿、お母さんたちの熱心な願いだったと改めて思います。「感動からはじまった福祉」。これからも互いの姿に感動し、影響されながら成長しますように。私は時に困りつつ、自分に言い聞かせています。「沖縄には沖縄の、海上チームには海上チームの、沖縄の教会には沖縄の教会の常識があり、それを尊重しなくてはいけない」と。で、毎日驚きながら退屈しないで過ごしています。

「さあ、出かけよう！感動と冒険の旅に！」

【NPO愛実の会寄付者名(敬称略・順不同)2021年3月1日～2021年6月30日】

愛実の会の活動、紙風船夢づくりのために多くの方々より寄付金を多数お寄せくださいます。誠にありがとうございます。

皆さまの温かいご支感謝援助ご協力に感謝して謹んでご報告申し上げます。

★寄付金

片桐 美由紀	水野 享好	山崎 京子
竹山 徹	塩田 保	有村 良子
神戸 一子	佐野 都吾	加藤 勝敏
津田 公子	阿部 健二	小池 美津子
伊藤 暁子	五十嵐 靖	池上 譲治
安藤 眞知子	山崎 眞由美	戸田 真二
鈴木 あつみ	畦地 優美	下村 徹嗣
吉谷 尚之(複数回)		

教団)名古屋中央教会

教団)金城教会社会福祉委員会

教団)刈谷教会

在日大韓基督教会豊橋教会

学校法人金城学院

刈谷教会CS

教団)愛知西地区社会部

教団)愛知教会女性の会

日本キリスト改革派八事教会

在日大韓基督教大阪教会女性会

中部学院大学宗教委員会

★紙風船夢づくり

渡邊 誉

READYFOR(クラウドファンディング)

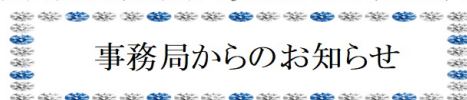
人形劇団紙風船新作人形劇制作プロジェクト成功！！

寄付者43名

目標700,000円に対して、780,000円の寄付をいただきました。

大切に使用させていただきます。

ありがとうございます。



寄付金のお願い

2021年度の寄付金目標額 200万円

- *新型コロナウイルス感染症予防対策のため
- *アシスタント支援体制強化のため
- *紙風船夢づくり(新作の人形劇制作等のため)

平素より愛実の会の活動のために多くの方の温かいご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

今年度も新型コロナウイルス感染症対策については、アルコール消毒の徹底など、「持ち込まない」「拡げない」を意識して、私たちにできることを考えながら取り組んでメンバーとのかかわりを大切にしていきたいと思ひます。

当法人への寄付金は税法上の優遇として寄付金控除を受けられます。

寄付金受領証明書は確定申告の折まで大切に保管してください。

愛実の会の詳しい活動についてはホームページにて掲載しております。ぜひ、ご覧ください。

皆さまのご多幸をお祈り申し上げます。

【所在地・連絡先】

特定非営利活動（NPO）法人 愛実の会

□ 居宅介護事業所あみ（ホームヘルプ）

〒455-0021 名古屋市港区木場町9番地の24

TEL：052-693-7645 FAX：052-746-2639

□ 障がい者デイセンター愛実（生活介護）

〒455-0021 名古屋市港区木場町9番地の24

TEL：052-693-5897 FAX：052-691-7889

E-mail info@aminokai.com

ホームページ http://www.aminokai.com

または

愛実の会	検索
------	----

【「認定NPO愛実の会」寄付金のお願い】

郵便振替 □座番号 00850-6-187490

□座名称 特定非営利活動法人 愛実の会 1□1,000円 何□でも結構です

- ◆ 寄付金（賛助会費・NPO愛実の会の活動に関する費用）
- ◆ 紙風船夢づくり（人形劇制作費、公演活動に関する費用）